

「未来をつくる力」 添田町が育成を 目指す子ども像

ふるさと添田町を愛し
夢・希望を実現する
かしこさとたくましさ兼ね備えた
人間性豊かな心を持つ子ども

【ふるさとを愛するところ】

歴史・文化・自然を育む添田町に生まれた喜びと
誇りが持てる教育を実践します

【夢や希望を実現するかしこさとたくましさ】

夢や希望の実現に向けて、多様なものの見方や考
え方に触れ、自ら学び自ら考える力を育むととも
に、たゆまず努力を続けることができる、忍耐力
や体力、学力を身に付けさせることに重点を置き
た教育を実践します

【人間性豊かな子ども】

家庭・地域との連携を強化し、体験活動や人間的
ふれあいを通じて「人の間」社会」で生きていく
ための教育を実践します



添田町が目指す子ども像・学校像

町は未来を担う児童・生徒が目指す子ども像・教育目標を「ふるさと添田町を愛し夢・希望を実現する かしこさとたくましさを兼ね備えた 人間性豊かな心を持つ子ども」と定め、さまざまな教育施策を実施してきました。

校舎の新設にあたり、この教育目標の実現のため小学校・中学校が学校像・計画理念を「子どもたちの生きる力を育み、地域の未来を拓く学校」と定め▼予測困難なこれからの時代に対応するために求められる「生きる力」をバランスよく身につける子どももの育成▼問題解決的な学習や体験型学習の一層の充実▼これまで分散していた人的・物的資源を効果的に投資▼小・中学校9年間の義務教育を見通した教育課程の編成・実施などに取り組みます。

小学校・中学校が一つとなった校舎からできる教育

町が目指す子ども像・学校像実現のために保育園などを出たばかりの小学1年生から大人の入口にいる中学生が一緒に在籍する義務教育学校ではなく、これまでの小学校6年・中学校3年制を維持し、小中一体型校舎のメリットを最大限に生かすことができる学校を創りました。

具体的には、小学校から中学校への進学、新しい環境での学習や生活に移行する段階でいじめや不登校などの諸問題（いわゆる

インタビュー

添田小学校の
教育目標は、

「自ら学び 心豊かにたくましく生きる 子どももの育成」です。この教育目標達成に向けて、「いい声・いい顔・いい心」を合言葉にして教育活動を推進しています。また、特徴的な教育活動として、「ふるさと学習」を位置付けています。添田町の生き物にふれる学習、米作り体験、長期宿泊体験学習、添田町の自然・歴史・文化にふれる学習など、添田町のひと・もの・ことにふれ、地域に誇りや愛情をもち、地域の一員として貢献できるようにしていきたいと考えています。

添田小学校 中山博紀校長



中一ギャップ）を避け、義務教育9年間を充実させるために小学校から中学校への接続を円滑化します。小学校職員室を校舎2階、中学校職員室を校舎3階に設けたことにより、子ども像・学校像を実現するための目的を明確にして教職員など関係者間で共有し、学校全体で組織的に取り組みます。

少子化や地域コミュニティの弱体化などで児童生徒の人間関係が固定化・希薄化しやすい中、学校が一つとなることで多様な教職員・児童生徒・保護者などに関わる機会を増やします。また、これまで添田小学校区域の見守りなどを行ってきた学校運営協議会（コミュニティスクール）を小学校・中学校に広げ一体となって子どもを育むことで、児童生徒が地域とかかわる機会を増やし、「ふるさと添田町」を愛する心情、将来への希望や夢、やり抜く力や意欲などを高める取り組みを行います。

インタビュー

新しい学校は廊下とか色々なところに木が使われていて、居心地が良くて学校に来るのが以前より楽しみになりました。読書が好きなので図書室も広くなって本を読むスペースがたくさんできたのでうれしいです。毎朝、おはよう広場で中学生があいさつしてくれるのがかっこよくて、私も中学生になったら小学生のことを思いやりたと思うようになります。

添田小学校企画委員長 手嶋花奈さん



新しい添田小学校・添田中学校のスタートにあたって 添田町教育長 高瀬光一

今年は長持ちしてくれた添田公園の桜咲く中の落成式から、新添田小学校の開校式、小中ともに新調した校旗の譲渡式、始業式、入学式と慌ただしく、そしてあつという間に4月が過ぎていきました。地域や保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで、登下校やスクールバスの運行も含めて順調に学校生活がスタートしています。しばらくの間、私も朝の登校指導に参加しましたが、その中で中学生のお兄ちゃんが入学したばかりの小学1年生の手を引いて登校している姿を見ました。「妹？」と聞くと、「はいー」という返事。照れることもなく、むしろ嬉しそうな笑顔でした。少し心細そうな妹さんもうニコツとしていました。



気持ちがあつくりすると同時に、「新しい小中学校は絶対にすばらしい学校になる」と確信しました。敷地等の関係から4階建ての校舎となりましたが、添田町の小中学生が一つ屋根の下で一緒に学校生活を送ることで、中学生が小学生に目をかけお世話をする、小学生はそんな中学生を見ながら憧れを持って成長する。年齢に関係なく遊び、生活していたかつての地域コミュニティの姿を感じたからです。

今年度からは小・中学校が一緒になったコミュニティスクールや県の委嘱を受けた道徳教育推進事業もスタートします。学校内では朝の時間を活用して中学生が小学生の朝自習の丸付けを始めました。学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、町全体として子どもたちの成長を支援していければと願っています。今後とも皆様のお力添えをお願いします。

インタビュー

今年度から始まった新校舎での学校生活。生徒たちはスローガンを「新天地～新しい自分を発見しよう～」として、気持ちを新たに学校生活に意欲的に望んでいます。そんな生徒たちの希望や期待に応えられるよう教職員も一丸となって取り組んでいます。また、添田中学校は添田小学校と別の学校でありながら一つの校舎の中に同居状態である珍しい形態になっています。この特徴を活かしながら、添田町が目指す「ふるさと添田町を愛し、夢希望を実現する、かしこさとたくましさを兼ね備えた、人間性豊かな心を持つ子ども」を育むべく、小学校と共通させるべきところは連携し、発達段階に応じて成長させるべきところは9年間の系統的な教育活動として取り組み、中学校独自としては、小学生の模範となる、憧れられる先輩となれるよう取り組みを進めています。

添田中学校
長畑理恵校長



インタビュー

新校舎に移って、中学生全員が同じフロアにいるので顔を見ることができ、上級生としてしっかりしなければと感じます。理科室など特別教室も同じ階にあって移動が楽になり、勉強に集中できるようになりました。部活の練習試合も添田中学校でできるようになりました。登校時など見守ってくれる地域の方に積極的にあいさつして、毎日触れ合う小学生のお手本になれるよう頑張ります。

添田中学校生徒会長
丸山宗将さん

